



2025年4月期第1四半期 決算説明資料

株式会社アストロスケールホールディングス
(証券コード：186A)

2024年9月13日

Astroscale Proprietary



ご留意事項

本プレゼンテーション資料は、株式会社アストロスケールホールディングス（以下「当社」または「アストロスケール」）により、情報提供のみを目的として作成しております。本プレゼンテーション資料には、当社の将来の見通しおよび計画に関する当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの記述は、本プレゼンテーション資料の日付または他の特定の日付時点における当社の仮定および見通しを反映しています。これらの前向きな記述が実現するという保証はありません。

実際の結果は、当社のミッションの開発や運用における変化または不利な結果、顧客の計画やニーズの変更、競争、法的小および規制環境の変更その他の要因を含む様々な要因により、これらの記述に示されたものと実質的に異なる場合があります。

したがって、これらの記述に過度の信頼を置かないように注意が必要です。当社は、適用法または証券取引所の規則および規制により要求される場合を除き、本プレゼンテーション資料に含まれる情報をその後の進展に基づいて更新または修正する義務を負いません。

本書には、引用されている第三者の情報に基づくまたは派生した情報が含まれています。当社は、第三者の情報の正確性または完全性を独自に検証しておらず、また、その正確性または完全性を当社が保証するものではありません。

目次

Section 1: 2025年4月期第1四半期 ハイライト

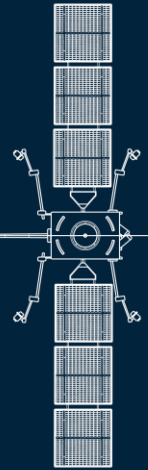
Section 2: 2025年4月期第1四半期 決算概要

Section 3: 受注残高、パイプライン、2025年4月期通期見通し

Section 4: その他の活動

Appendix

本資料では特に明記されていない限り、以下の通りとする。
為替前提：US\$1 = ¥140, €1 = ¥150, £1 = ¥175。
年度表記：「202X年度」は「202X年4月期」と同等の期間を指す。
四半期表記：「Q1」は毎年5月1日から7月31日までの第1四半期を指す。



SECTION 1

2025年4月期第1四半期
ハイライト



2025年4月期第1四半期 ハイライト

FY2025 Q1 重要指標

1. ADRAS-Jミッションにより、世界で初めて本物のデブリの撮影および周回観測に成功し、当社RPO技術を再度実証。
2. 世界各国で、合計25.8億円におよぶ複数の契約を締結。
3. Airbus Defence and Space Limitedと戦略的なパートナーシップに関する覚書を締結。
4. G7プーリアサミット等において政策強化に向けた動きが加速。
5. 第1四半期実績は計画通り。2025年4月期通期予想（プロジェクト収益 180億円）は変更無し。

受注残高⁽¹⁾： 279.75億円

プロジェクト収益⁽²⁾： 11.66億円
(+102.1% YoY)

営業利益： -75.97億円

現預金： 273.4億円

(1) 受注残高は、ISSA-J1（従前はSBIRと呼称）フェーズ2、3等の現時点では未受注であるが、競合が存在しない後継フェーズで当社グループによる受注が期待できるもの、および2024年4月に選定され、2024年7月末時点では未締結のADRAS-J2の想定受注金額/受注残高を含みます。

(2) Non-IFRS指標。IFRSでは補助金はその他の収益認識となるが、プロジェクト収益は、国際会計基準（IFRS）により規定された指標ではなく、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社が有用と考える財務指標である。プロジェクト収益は、当社グループが提供するサービスの対価として取得する政府補助金収入を売上収益に加算して算出しており、劣勢手続として重要な制限があることから、国際会計基準に準拠して表示された他の指標の代替的指標として考慮されるべきではない。当社グループにおけるこれらの数値は、同業他社の同指標あるいは類似の指標とは算定方法が異なるために、他社における指標とは比較可能でない場合があり、その結果、有用性が減少する可能性がある。

Astroscale Proprietary

5

2025年4月期第1四半期のハイライトとなります。

1点目は、ADRAS-Jミッションについてです。日本由来のデブリであるH2Aロケット上段の撮影および周回観測に、世界初で成功しました。

2点目は、第1四半期の受注高が25.8億円となりました。加えて、8月から9月にかけて、大口契約を含む2件の契約を120億円超で受注しており、着実に2025年4月期に向けた案件の受注を積み重ねています。

3点目は、事業機会の拡大につながるAirbus Defence and Space Limitedとの覚書を締結しました。この戦略的パートナーシップを通じて、特に英国における軌道上サービスの拡大が期待されています。

4点目は、2024年6月に開催されたG7サミットで、昨年に引き続きデブリ問題が首脳コミュニケに言及されました。デブリ除去に関する政策が強化される動きが着実に進んでいます。

最後に5点目は、決算についてです。第1四半期は計画通りに進捗しており、通期計画も据え置いております。



ADRAS-J：世界初のデブリ観測ミッション達成

撮影した観測対象のデブリ⁽¹⁾

ADRAS-Jは当社が保有するRPO技術により世界で初めて本物のデブリの撮影および周回飛行に成功。

- 2月18日：打上げ成功、軌道上でのオペレーション開始
- 5月23日：デブリ後方約50mの距離へ接近に成功
- 5月23日：定点観測（1回目）を実施・成功
- 6月17日：定点観測（2回目）を実施・成功
- 6月19日：周回観測（1回目）を実施
- 7月14日：定点観測（3回目）を実施・成功
- 7月15日：周回観測（2回目）を実施・成功
- 7月16日：周回観測（3回目）を実施・成功



(1) 2009年に打ち上げられた日本のロケット上段。全長約11メートル、重量約3トン。
Astroscale Proprietary

6

先ずは、第1四半期で達成した技術実証に関してご説明いたします。

今年2月18日に打ち上げられましたADRAS-Jはその後順調にオペレーションを遂行しております。スライド右側の写真は、2024年5月、本物のデブリへの接近に成功し、デブリの50m真後ろで相対静止して、撮像した世界初の写真となります。宇宙の持続利用には、軌道上サービスが必要であり、軌道上サービスにはこのRPO（ランデブ・近傍運用）技術が必須となります。

また6月、7月にはデブリから50mの距離を維持したままデブリの周回観測にも3度成功しております。

現時点で、非協力物体であるデブリへのRPO技術を宇宙実証しているのは世界で当社のみとなります。今回は観測がミッションですが、これを除去するミッション（ADRAS-J2）を8月20日にADRAS-J2ミッションとして、120億円（税抜）で正式契約をしています。



2025年4月期の契約締結済・獲得済案件: 合計149億円

APS-R (受注金額の増加)

(プレスリリース)

- サービス: LEX (寿命延長サービス)
- 顧客: 米国宇宙軍
- 増額金額: 1.355百万ドル (約2.1億円)
- 契約締結日: 2024年6月17日

ADRAS-J2

(プレスリリース)

- サービス: ADR (既存デブリの除去サービス)
- 受注先: 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
- 受注金額: 120億円
- 契約締結日: 2024年8月20日

ELSA-M フェーズ4

(プレスリリース)

- サービス: EOL (運用終了後衛星の除去サービス)
- 顧客: 欧州宇宙機関 (ESA)
英国宇宙庁 (UKSA)
Eutelsat OneWeb
- 受注金額: 13.95百万ユーロ (約23.8億円)
- 契約締結日: 2024年7月18日

COSMIC フェーズ2

(プレスリリース)

- サービス: ADR (既存デブリの除去サービス)
- 受注先: 英国宇宙庁 (UKSA)
- 受注金額: 1.95百万ポンド (約3.6億円)
- 契約締結日: 2024年9月5日

(1) ADRAS-J2とCOSMICフェーズ2は2025/4期第1四半期終了後に契約締結。
Astroscale Proprietary

7

このスライドは2025年4月期に正式受注をした案件の一覧になります。第1四半期の受注に加えて、8月ならびに9月に受注した案件も含めたております。9月13日現在での2025年4月期の受注金額は合計約149億円となり、第1四半期のみに限れば、受注金額は25.82億円となりました。

さて、左上のAPS-Rは米国宇宙軍から受注しております燃料補給を通じた寿命延長サービスとなります。これは2023年9月に25.5百万ドルで受注をしておりましたが、契約内容の見直しにより、1.355百万ドルの増額となっております。

また7月には、左下のELSA-Mフェーズ4を正式に受注しております。これは、今後のEOLサービスの商用化に向けた重要な最終フェーズの実証ミッションとなりますが、受注金額は13.95百万ドルとなります。この案件は、一部顧客拠出の案件となりますので、契約時点で損失が確定しておりますので、受注損失引当金を第1四半期に計上いたしました。

右上の案件は、8月に大型受注いたしましたADRAS-J2となります。先ほどのスライドでご説明をいたしましたADRAS-Jの後継ミッションとなります。受注金額は当社過去最高となる120億円（税抜）となります。

最後に右下はCOSMICフェーズ2となります。英国宇宙庁と進めているADRミッションとなります。過去お話ししておりましたフェーズCの初期段階フェーズを切り出しフェーズ2として受注いたしました。金額は当社予算に対して計画線の内容となり、英国におけるADRを推進する上で重要な案件です。

今後も今期中に複数の大型案件の受注を想定しております。



Airbus Defence and Space Limitedとの戦略的なパートナーシップ

(プレスリリース)

- Astroscale Ltd (アストロスケール英国) は2024年8月に覚書を締結。
- 両社の強みと技術を共有することで、持続可能な宇宙環境の実現や衛星の運用可能年数の延長の課題解決を目指しながら、特に英国における軌道上サービス産業の発展と宇宙の循環型宇宙経済の確立を目指す。

協業分野

デブリ除去

軌道上サービス

軌道上のRPO

軌道上での組み立てと製造

衛星の燃料補給と寿命延長

Astroscale Proprietary

8

また受注以外にも事業での進展がありますので、紹介いたします。

8月に当社英国子会社であるAstroscale LtdがAirbus Defence and Space Limitedと英国における軌道上サービスに関する戦略的なパートナーシップの覚書を締結しております。

現時点では、具体的な受注案件はありませんが、今後、Airbus社を通じた事業機会が見込めると期待しています。



G7プーリアサミット G7首脳コミュニケ（2024年6月）

We strongly support the implementation of the International Guidelines adopted at the UN Committee on the Peaceful Use of Outer Space as urgent and necessary. We welcome national efforts to develop further solutions for space debris mitigation and remediation, including further research and development of orbital debris mitigation and remediation technologies, and the development of space sustainability standards and regulations.

私たちは、国連宇宙空間平和利用委員会で採択された国際ガイドラインの実施を、喫緊かつ必要なものとして強く支持する。我々は、軌道上デブリの低減及び改善に関する技術の更なる研究開発、並びに宇宙の持続可能性に関する基準や規制の策定を含め、スペースデブリの低減と改善のための更なる解決策を進展させる各国の取組を歓迎する。

引用: <https://www.g7italy.it/wp-content/uploads/Aquila-G7-Leaders-Communique.pdf> <https://www.mofa.go.jp/mofai/files/100704469.pdf>

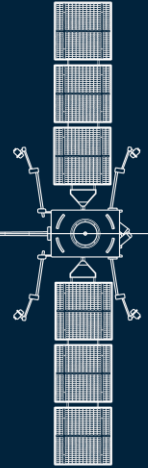
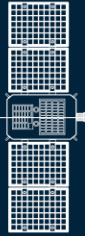
Astroscale Proprietary

9

次は規制に関する進展についてご説明いたします。

6月にイタリアで行われましたG7プーリアサミットにおいて、昨年同様にスペースデブリ問題が取り上げられ、首脳コミュニケにも言及されています。

昨年に対して、「宇宙の持続可能性に関する基準や規制の策定を含め」と、より具体的な方向性が盛り込まれており、少しずつ着実に政策強化に向けた動きが進んでおります。



SECTION 2

2025年4月期第1四半期 決算概要



2025年4月期第1四半期実績

一時的要因によりQ1では損失が大きかったものの、年度末に向けて四半期業績の改善を見込む。

(百万円)	2024/4期 Q1	2025/4期 Q1	前年同期比増減	
受注高	非開示	2,582	NM	
プロジェクト収益	A	577	1,166	102.1 %
政府補助金収入	B	-	927	NM
売上収益	$C = A + B$	577	239	(58.5) %
売上原価	D	(745)	(3,740)	401.9 %
売上総利益 $E = C - D$	(168)	(3,501)	-	
売上総利益率 E / C	(29.1) %	(1,462.6) %	-	
販売費及び一般管理費 (研究開発費) F	(961)	(3,080)	220.2 %	
販売費及び一般管理費 (その他) G	(1,340)	(2,170)	62.0 %	
その他の収益 H	-	1,154	NM	
政府補助金収入 B	-	927	NM	
営業利益 $I = E - H$	(2,470)	(7,597)	-	
営業利益率 I / C	(428.0) %	(3,173.8) %	-	
税引前当期利益	(1,776)	(8,579)	-	
当期利益	(1,776)	(8,579)	-	
1ドル当たり円	139.90	157.19	12.4 %	
1ポンド当たり円	177.17	200.18	13.0 %	

- 1 新規補助金案件による増加 (APS-R、ISSA-J1⁽¹⁾)。
- 2 ADRAS-J、ELSA-Mフェーズ3及びCOSMICフェーズBの減収による一時的な減少。
- 3 ELSA-Mフェーズ4に係る受注損失引当金繰入額32億円の計上による一過性の増加。
・引当金計上額は想定通り。
- 4 補助金案件の開発費用 (APS-R、ISSA-J1⁽¹⁾) 及び未受注案件の先行開発費用 (LEXI-P等) の増加。
- 5 人件費及びIPO関連費用の増加 (金額は想定範囲内)。

(1) 従前はSBIRと呼称。
注：プロジェクト収益：Non-IFRS指標。プロジェクト収益には、顧客からの売上収益と、特定のプロジェクトに使用される補助金に関連する政府補助金収入が含まれる。当社は、資金調達方法に関わらず幅広いプロジェクト活動を推進しているため、プロジェクト収益は、当社のプロジェクト関連活動から得られる収入源に関する追加情報を投資家に提供するものと考えている。経路等は、プロジェクト関連活動の収入を示す主要な管理会計上の指標として、プロジェクト収益を注視している。

Astroscale Proprietary

11

2025年4月期第1四半期の決算についてご説明いたします。なお、このスライド以降に出てきます「ISSA-J1」に関しまして、従前はSBIRと呼んでおりましたが、今回よりプロジェクト名のISSA-1に統一いたします。

さて、2025年4月期第1四半期の実績につきましては、プロジェクト収益、利益とも計画線で推移しております。一時的要因により損失が拡大しましたが、第2四半期以降、年度末に向けて四半期業績の大幅な改善を見込んでいます。具体的には次の通りです。

受注高は25.82億円となりました。四半期の受注高開示は今回から開始しますので、2024年度第1四半期の数字は非開示としております。計画線で推移しております。

プロジェクト収益は11.66億円となり、前年同期比で倍増いたしました。なお、プロジェクト収益は、IFRSの売上収益と政府補助金収入で構成されております。

- ・政府補助金収入は、9.27億円となりました。2023年10月以降計上を開始しているプロジェクト (APS-R、ISSA-J1) が対象となっておりますので、前年度第1四半期の政府補助金収入はゼロでした。
- ・また、売上収益は2.39億円となり、前年同期比58.5%減収いたしました。主な要因は、ADRAS-J、ELSA-Mフェーズ3、COSMICフェーズBのプロジェクト完了が近づいていることによるものです。
- ・第1四半期において、プロジェクト収益の通期業績予想180億円に対する進捗率は低いですが、当社計画に沿って推移しており、8月に大口契約を締結したADRAS-J2の売上収益への貢献を見込んでおりますので、第2四半期以降、大幅な増収を見込んでいます。

第1四半期の売上原価は、37.4億円となり、前年同期比で5倍に膨らみました。主な要因は、従前からのご説明の通り、一過性の費用としてELSA-Mフェーズ4に係る受注損失引当金繰入額を32.0億円計上したことによるものです。なお、引当金計上額は想定通りです。

その結果、第1四半期の売上総損失は、35.0億円となりました。これには、上記受注損失引当金繰入額を約32.0億円計上した影響が含まれています。また、2024年8月に契約締結したADRAS-J2は提案する範囲で費用が全額拠出される案件であるため、第2四半期以降の収益性の改善を見込んでいます。

次に営業費用ですが、うち、研究開発費は30.8億円となり、前年同期比で220.2%増加いたしました。主な要因は、2023年10月以降計上を開始している補助金案件の開発費用 (APS-R、ISSA-J1) 及び未受注案件の先行開発費用 (LEXI-P等) の増加によるものです。

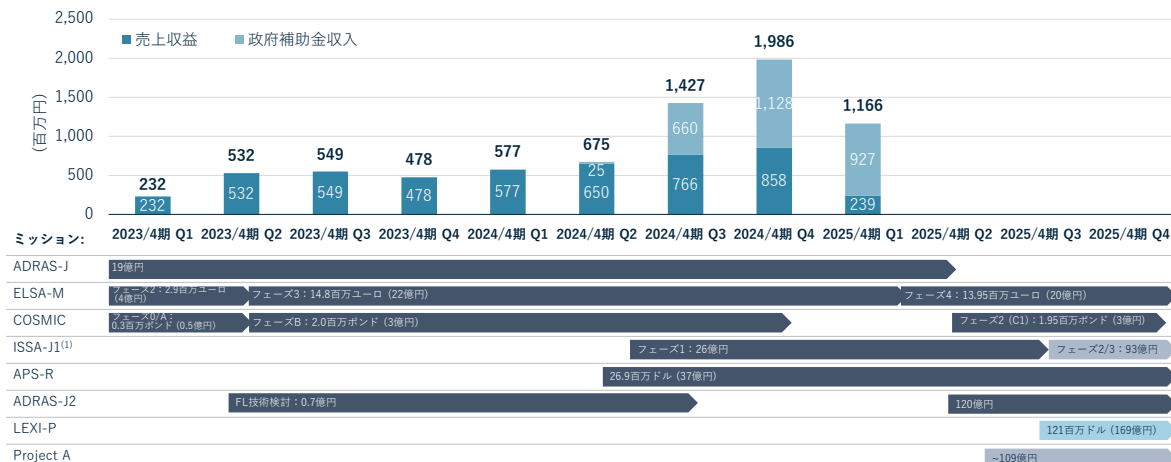
研究開発費を除く販売費及び一般管理費は21.7億円となり、前年同期比で62.0%増加いたしました。主な要因は、人件費及びIPO関連費用の増加によるものです。なお、金額は想定範囲内です。

その結果、第1四半期の営業損失は、75.9億円となりました。また、為替変動に伴う為替差損8.3億円及び借入金に係る支払利息1.6億円等により、四半期損失は、85.7億円となりました。



プロジェクト収益：四半期実績推移

第1四半期は、ADRAS-J、ELSA-Mフェーズ3、COSMICフェーズBからの収入が減少したため、想定通りプロジェクト収益が減少。第2四半期以降はミッションに係る開発が加速することにより、増収を見込む。



(1) 従前はSSIRと呼称。

注：プロジェクトのタイムラインや未契約プロジェクトの契約金額等の詳細は、現時点における当社の想定であり、今後変更の可能性がある点に留意が必要。パイプラインの詳細については、18及び19ページを参照。

Astroscale Proprietary

12

2025年4月期第1四半期までの実績のうち、プロジェクト収益の四半期推移と、対応する主なミッションパイプラインをご説明いたします。

第1四半期は、ADRAS-J、ELSA-Mフェーズ3、COSMICフェーズBからの収入が減少したため、想定通りプロジェクト収益が減少いたしました。

第2四半期以降は、2024年8月から9月にかけての新規受注ミッション（契約金額120億円（税抜）のADRAS-J2等）の開始や既存ミッションに係る開発が加速すること、今後の新規契約締結を想定することから、増収を見込んでいます。同様の要因による増収は、大型案件であるISSA-J1やAPS-Rの新規受注に伴い、政府補助金収入が2024年4月期第3四半期以降に増加したことからもご確認いただけます。



販売費及び一般管理費／その他の収益

販管費及びその他の収益は概ね想定通りの推移。

(百万円)	2024/4期 Q1	2025/4期 Q1	前年同期比増減
販売費及び一般管理費	(2,302)	(5,250)	128.1 %
研究開発費	(961)	(3,080)	220.2 %
純粋な研究開発費用	(92)	(55)	(40.1)%
補助金案件の開発費用	-	① (1,066)	NM
未受注案件の先行開発費用	(869)	② (1,958)	125.3 %
その他の販売費及び一般管理費	(1,340)	③ (2,170)	62.0 %

- ① 新規補助金案件による増加（APS-R、ISSA-J1⁽¹⁾）。
- ② 未受注案件の先行開発費用の増加（LEXI-P等）。
- ③ 人件費及びIPO関連費用の増加（金額は想定範囲内）。

(百万円)	2024/4期 Q1	2025/4期 Q1	前年同期比増減
その他の収益	-	1,154	NM
政府補助金収入	-	④ 927	NM
その他	-	⑤ 227	NM

- ④ 新規補助金案件による増加（APS-R、ISSA-J1⁽¹⁾）。
- ⑤ 税金還付等による収入。

(1) 従前はSBRと呼称。

Astroscale Proprietary

13

2025年4月期第1四半期の販売費及び一般管理費、その他の収益の実績の内訳についてです。

研究開発費に関して、2つの変動要因がありました。

- ・一つ目は、補助金案件の開発費用が増加したことです。2023年10月以降計上を開始しているプロジェクト（APS-R、ISSA-J1）が対象となっておりますので、前年度第1四半期の同費用はゼロでした。
- ・二つ目は、未受注案件の先行開発費用（LEXI-P等）が開発推進により増加したことです。
- ・なお、純粋な研究開発費に重要な変動はありませんでした。

次に、研究開発費以外の販売費及び一般管理費の主な増加要因は、人件費及びIPO関連費用の増加によるものです。なお、金額は想定範囲内です。

その他の収益は11.5億円となりました。前年同期はゼロでした。

- ・政府補助金収入は、2023年10月以降計上を開始しているプロジェクト（APS-R、ISSA-J1(1)）が対象となっております。
- ・その他税金還付等による収入がありました。



バランスシート

当社は引き続き健全なバランスシートを維持。

(百万円)	2024/4	2024/7	増減率
資産	24,990	38,366	53.5 %
流動資産	17,746	31,229	76.0 %
現金及び現金同等物	14,196	27,340	92.6 %
その他の流動資産	3,549	3,888	9.6 %
非流動資産	7,244	7,136	(1.5)%
有形固定資産	6,214	6,107	(1.7)%
その他の非流動資産	1,029	1,029	(0.0)%
負債	19,589	20,790	6.1 %
流動負債	8,864	7,905	(10.8)%
借入金	2,487	3,099	24.6 %
引当金	2,071	2,095	1.1 %
その他の流動負債	4,304	2,710	(37.0)%
非流動負債	10,725	12,884	20.1 %
借入金	7,375	7,350	(0.3)%
引当金	271	2,544	836.9 %
その他の非流動負債	3,078	2,989	(2.9)%
資本	5,401	17,575	225.4 %
有利子負債	13,180	13,669	3.7 %
1ドル当たり円	157.19	151.06	(3.9)%
1ポンド当たり円	196.88	194.02	(1.5)%

- ① IPO時公募増資による増加(20,070百万円)。
- ② 融資枠の借入実行による増加。
- ③ ADRAS-J及びELSA-Mフェーズ3に係る受注損失引当金の戻入。
- ④ ELSA-Mフェーズ4に係る受注損失引当金計上。
- ⑤ IPO時公募増資による増加分が損失を相殺。
- ⑥ 内訳：
 - ・ 借入金：10,450百万円
 - ・ リース債務：3,219百万円

Astroscale Proprietary

14

次に、2025年4月期第1四半期末時点のバランスシートについてご説明いたします。IPO時公募増資を経て、引き続き健全なバランスシートを維持しております。

資産合計は383.6億円となり、前年度末比で53.5%増加いたしました。主な要因はIPO時公募増資により現金及び現金同等物が200.7億円増加したことです。

負債合計は207.9億円となり、前年度末比で6.1%増加いたしました。主な要因は2点です。

・一つ目は、プロジェクト資金のための契約済融資枠の借入実行により、借入金（流動負債）が6億円増加したことです。なお、第1四半期末の有利子負債合計は136.6億円であり、その内訳は借入金104.5億円及びリース債務32.1億円です。

・二つ目は、ELSA-Mフェーズ4に係る受注損失引当金（流動負債及び非流動負債）計32億円の新規計上と、ADRAS-J及びELSA-Mフェーズ3に係る受注損失引当金の戻入があったことです。これらの相殺により引当金（流動負債）に重要な変動はなく、ELSA-Mフェーズ4に係る受注損失引当金の新規計上により引当金（非流動負債）は増加いたしました。

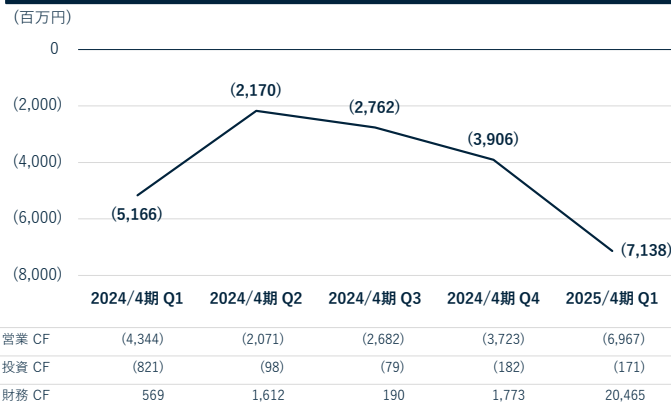
資本合計は175.7億円となり、前年度末比で225.4%増加いたしました。主な要因は先ほど申し上げた公募増資です。



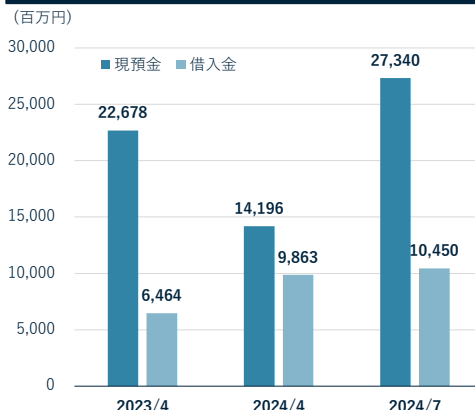
キャッシュ・フローと現預金／借入金残高

第1四半期のフリー・キャッシュ・フローは、主に損失増加により想定通り大きく減少。
第2四半期は、損益の改善と顧客からの前払金を受け取る予定であるため、大幅な改善を見込む。

四半期フリー・キャッシュ・フロー推移⁽¹⁾



現預金及び借入金残高



(1) フリー・キャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローの和。

Astroscale Proprietary

15

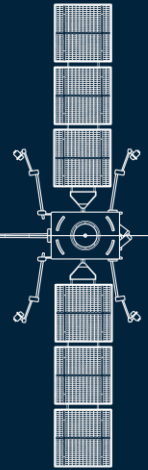
次に、前年度期首からのキャッシュ・フロー（CF）と、現預金及び借入金残高の推移をご説明いたします。

第1四半期のフリー・キャッシュ・フロー（FCF）は、主に損失増加により想定通り大きく減少いたしましたが、第2四半期のFCFは、損益の改善と契約に基づき顧客からの前払金を受け取る予定があるため、大幅な改善を見込んでいます。

左図は四半期ごとのFCFの推移で、右図は現預金及び借入金残高の推移です。

・現預金残高は第1四半期末で273.4億円となり、前年度末比で大幅に増加いたしました。これは、損失増加により第1四半期の営業CFが想定通り大きく減少しましたが、他方で、主にIPO時公募増資により200.7億円増加したことによります。なお、借入金残高に重要な変動は生じておりません。

・第2四半期では、損益の改善と契約に基づく顧客からの前払金を受け取る予定があるため、FCF（うち、営業CF）の大幅な改善を見込んでいます。

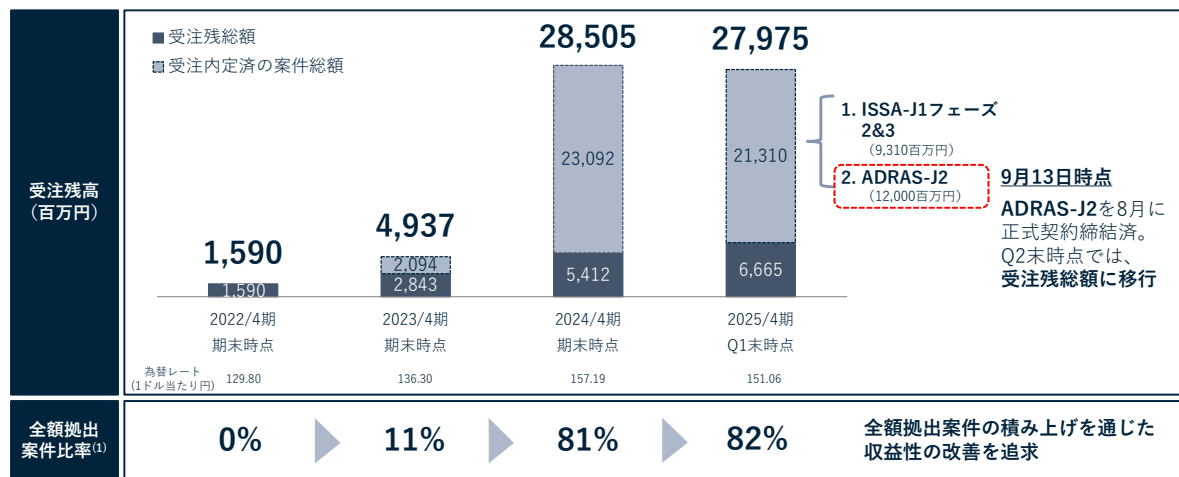


SECTION 3

受注残高、パイプライン、
2025年4月期通期見通し



受注残高



(1) 全額拋出案件は弊社が顧客に提案する範囲の費用を全額顧客に負担いただける案件と定義。比率は案件の金額を基準に計算。

(2) 受注残高は、据時点では未受注であるものの割合が存在しない後続フェーズにおける当社グループによる受注が期待できると認識するSBIRフェーズ2及び3に係る想定受注金額/受注残高及び2024年8月に契約締結したADRAS-J2 (2024年7月末時点で契約未締結) の受注金額/受注残高を含む。

Astroscale Proprietary

17

受注残高についてご説明いたします。

4月末時点の受注残高285.05億円に対して、第1四半期の新規受注金額25.82億円、プロジェクト収益11.66億円の結果、第1四半期末の受注残高は279.75億円となりました。

なお、受注残高は四半期末の為替レートを採用して日本円に換算しておりますが、4月末1ドル157.19円から7月末151.06円へ円高推移し、若干目減りしております。

2024年4月期期末時点からの主な変化といたしましては、ELSA-Mフェーズ4の正式契約を締結しましたので「受注内定済の案件総額」から「受注残総額」の濃い棒グラフに移行しております。その結果、受注残総額は4月末54.12億円から66.65億円に増加しています。

また、8月に契約締結をいたしましたADRAS-J2は7月末時点では「受注内定済の案件総額」に含めておりますが、契約金額が114億円から120億円に増額されておりますので、今回の数字に反映しております。既に受注済のため、社内では受注残総額として認識をしておりますが、開示上は、第2四半期末時点の受注残総額に120億円を移行することになります。

当社が顧客に提案した範囲でプロジェクト費用を全額拋出いただける案件の比率は、7月末で82%に上昇しております。全額拋出案件の比率は上昇しており、今後も、全額拋出案件を積み上げていき、収益性の改善に取り組んでまいります。



パイプラインの状況（政府機関需要）

（2024年9月13日時点）

想定プロジェクトタイムライン ● 今年受注を目指す戦略的プロジェクト ● 打上げ予定 ● 政府機関（未契約） ● 民間（未契約）	為替レート前提: US\$1 = ¥140 £1 = ¥150 £1 = ¥175
---	--

#	プロジェクト	サービス	顧客	当社拠点	費用負担	支払形態	計上科目	CY2020	CY2021	CY2022	CY2023	CY2024	CY2025	CY2026	CY2027
								FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026	FY2027	FY2028
契約済 / 選定済及び提案中のプロジェクト															
1	ELSA-d	-	-	-	自己資金	-	-								
2	ADRAS-J	ISSA	政府機関	日本	一部拠出	マイルストーン	売上収益	19億円							
3	ELSA-M	EOL	政府機関	英国	一部拠出	マイルストーン	売上収益			フェーズ2: 2.9百万ユーロ (4億円)	フェーズ3: 14.8百万ユーロ (22億円)	フェーズ4: 13.95百万ユーロ (29億円)			
4	COSMIC	ADR	政府機関	英国	全額拠出	マイルストーン	売上収益			フェーズ0/A: 0.3百万ポンド (0.5億円)	フェーズB: 2.0百万ポンド (3億円)	フェーズC/D/E: 40-60百万ポンド (70-105億円)			
5	ISSA-J1 (SBIR)	ISSA	政府機関	日本	全額拠出	マイルストーン	その他の収益				2024/9新規契約!	フェーズ1: 26億円	フェーズ2/3: 93億円		
6	APS-R	LEX	政府機関	米国	一部拠出	マイルストーン	その他の収益				2024/7増額! →	26.9百万ドル (37億円)			
7	ADRAS-J2	ADR	政府機関	日本	全額拠出	マイルストーン	売上収益			概算見積: 9百万円	PL技術検討: 0.7億円	120億円			
8	LEXI-P	LEX	民間/政府	米国	全額拠出	マイルストーン	売上収益				2024/8新規契約 & 想定対比増額!	121百万ドル (169億円)			
9	Project A	LEX	政府機関	日本	全額拠出	マイルストーン	売上収益								~109億円
協議中の潜在的プロジェクト															
i	MELCO (Bus)	その他	民間/政府	日本											
ii	防衛案件	ISSA	Institutional	-											
iii	防衛案件	ISSA	Institutional	-											

注: プロジェクトのタイムラインや未契約プロジェクトの契約金額等の詳細は現時点における会社の想定であり、今後変更の可能性がある点に留意が必要。「全額拠出」は、契約に基づき拠出される資金により、当社グループが提案した範囲につき、当社グループが負担すると予想される経費の全額が帰属されると当社が見込んでいることを示し、「一部拠出」は、契約に基づき拠出される資金により、かかる経費の一部が帰属されるに留まると当社が見込んでいることを示す。各ミッションに係る実際の契約金額や、当社グループが実際に負担する経費の金額は、現時点における当社の想定から乖離する可能性があり、特に、契約締結時に想定されていた経費が契約締結後に追加的に発生した場合には、ミッションによっては基本的に当社グループの負担となるため、契約に基づき拠出される資金により、当社が負担する経費の全額を帰属することができない可能性がある。

このスライドは、2024年9月13日時点の政府需要のパイプライン状況を示しています。

8月19日の事業説明会以降の変化としまして、#4の英国で進めておりますCOSMICプロジェクトに関して、従来フェーズC（40-60百万ポンド）と表記をしておりましたが、この一部分を切り出したものをフェーズ2と称しており、9月11日リリースの通り、正式に受注しております。実際のデブリ除去ミッションフェーズ（今回、フェーズC/D/Eと表記）は改めて入札が行われると当社は想定しております。



パイプラインの状況（民間需要）

（2024年9月13日時点）

想定プロジェクトタイムライン ● 今年受注を目指す戦略的プロジェクト ● 打上げ予定 ● 政府機関（未契約） ● 民間（未契約）		為替レート前提： US\$1 = ¥140 €1 = ¥150 £1 = ¥175
---	--	--

#	プロジェクト	サービス	顧客	当社拠出	費用負担	支払形態	計上科目	CY2020	CY2021	CY2022	CY2023	CY2024	CY2025	CY2026	CY2027								
								FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026	FY2027	FY2028								
EOLミッション（ELSA-Mシリーズ衛星を使用）																							
3	ELSA-M	EOL	政府機関	英国	一部拠出	マイルストーン	売上収益	フェーズ2：2.9億ユーロ（4億円）		フェーズ3：14.8億ユーロ（22億円）		フェーズ4：13.95億ユーロ（20億円）											
-	EOL	EOL	民間	英国	全額拠出	契約次第	売上収益	2024/7新機契約！								EOLサービスに発展		年複数機の契約を想定					
ELSA-M ドッキングプレート ELSA-Mサービサー 廃止/故障した顧客衛星								ELSA-Mに関する当社想定 ELSA-Mサービサー ・サービサー当たりのデブリ除去数：3機 ・1除去当たりの収益（計画値）：8-13百万ドル 顧客衛星 ・顧客衛星の寿命：5-7年 ・顧客衛星の故障率（当社想定）①：7-8%								102 348 540 568 246 192 28 3,500 >2,000 打上げ5-7年後に退役する顧客衛星の故障機に対する除去ニーズ							
LEXミッション（LEXIシリーズ衛星を使用）																							
8	LEXI-P	LEX	民間/政府	米国	全額拠出	マイルストーン	売上収益	121百万ドル（169億円）								LEXサービスに発展		政府、民間合わせて年1-2機の契約を想定					
-	LEXI-G	LEX	政府機関	米国	全額拠出	マイルストーン	売上収益																
-	LEXI-C	LEX	民間	米国	全額拠出	契約次第	売上収益																
LEXI LEXIサービサー ・合計寿命延長可能年数：15年 ・サービサー1機当たり収益機会：121-215百万ドル（衛星を売却する場合） 顧客衛星（静止軌道衛星） ・顧客衛星の寿命：15年 ・顧客生成の製造単価：数億ドル								12 18 19 22 8 10 7 14 ■ 民間運用静止軌道衛星の退役数 ■ 政府運用静止軌道衛星の退役数															

①過去の衛星システムの故障率調査に基づく当社推定の故障率。この故障率は、互換性のあるドッキングプレートを搭載した現在の衛星システムの実際の故障率を示すものではない。注：上記ELSA-M及びLEXIの当社想定、ドッキングプレートや運用停止予定の衛星の数等は当社予想に基づく数値であり、実際の数は上記の予想等とは異なる可能性がある。プロジェクトのタイムラインや未契約プロジェクトの契約金額等の詳細は、現時点における当社の想定であり、今後変更の可能性がある点に留意が必要。

このスライドは民間需要として期待されるEOL、LEXミッションをお示ししたものととなります。

8月19日の事業説明会以降の変化はありません。



2025年4月期業績予想（2024年6月13日時点から変更なし）

(百万円)	2025/4期 予想	2024/4期 実績	前年比
プロジェクト収益	18,000	4,667	285.7%
営業損益	N/A	(11,555)	-
税引前当期損益	N/A	(9,219)	-
当期損益	N/A	(9,181)	-

為替前提
(円)

1ドル	140.00	146.23	(6.23)
1ユーロ	150.00	158.29	(8.29)
1ポンド	175.00	183.85	(8.85)

為替感応度
(百万円)

80
-
12

注：利益項目の予想を非開示とする理由は、大型プロジェクトは案件毎にコスト原簿に違いが生じる可能性が高く、契約内容が判明しない限り、現時点では不確実性を払拭できないため、2025年4月期中に契約締結を期待する大型プロジェクト案件の受注が確定し次第、速やかに通期利益予想を公表する予定。為替感応度は、1円の円安変動に対するプロジェクト収益への影響額。

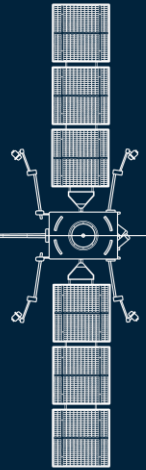
2025年4月期の業績予想となります。

従前の公表であるプロジェクト収益180億円から変更はありません。利益項目に関しましては今回も非開示とさせていただきます。



SECTION 4

その他の活動





その他の活動

上場前に私募調達ラウンドでご出資下さった株式会社エーススタート及び三菱UFJキャピタル株式会社がCEO岡田光信とCFO松山宜弘にインタビューを実施。



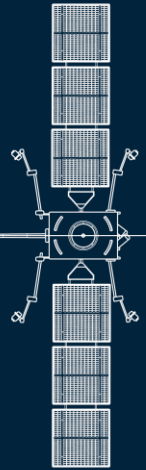
リリース： 2024年8月8日
取材元： 株式会社エーススタート
記事を読む： [外部リンク](#)



リリース： 2024年8月29日
取材元： 三菱UFJキャピタル株式会社
記事を読む： [外部リンク](#)

当社の第1四半期の活動について、一部ご紹介をいたします。

私募調達ラウンドで当社にご出資を頂いておりました株式会社エーススタート及び三菱UFJキャピタル株式会社が、上場後に、当社CEO岡田光信とCFO松山宜弘にインタビューを実施されました。その時の対談・インタビュー記事となります。当社の定性的なご理解につながるとお思いましてご紹介させて頂きました。お時間がございましたら是非ご覧いただければ幸いです。



Appendix



過年度財務情報：連結損益計算書等

(百万円)	2022/4期	2023/4期	2024/4期	2024/4期 Q1	2025/4期 Q1
受注高	675	2,980	6,775	-	2,582
プロジェクト収益 (Non-GAAP)	910	1,792	4,667	577	1,166
売上収益 (IFRS)	910	1,792	2,852	577	239
売上原価	(2,742)	(6,988)	(5,097)	(745)	(3,740)
売上総利益	(1,832)	(5,195)	(2,245)	(168)	(3,501)
売上総利益率	(201.3)%	(289.8)%	(78.7)%	(29.1)%	(1,462.6)%
研究開発費	(2,170)	(2,861)	(5,001)	(961)	(3,080)
販売費及び一般管理費 (研究開発費除く)	(2,591)	(4,547)	(6,694)	(1,340)	(2,170)
その他の収益	190	2,938	2,386	0	1,154
営業利益	(6,404)	(9,665)	(11,555)	(2,470)	(7,597)
営業利益率	(703.5)%	(539.1)%	(405.1)%	(428.0)%	(3,173.8)%
金融収益	853	507	2,824	809	15
金融費用	(12)	(155)	(488)	(116)	(997)
税引前当期利益	(5,563)	(9,314)	(9,219)	(1,776)	(8,579)
法人所得税費用	79	49	38	(0)	(0)
当期利益	(5,484)	(9,264)	(9,181)	(1,776)	(8,579)
基本的1株当たり当期利益 (円)	(73.66)	(111.16)	(101.45)	(19.73)	(80.98)



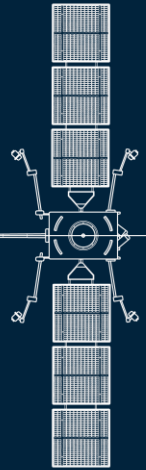
過年度財務情報：連結財政状態計算書

(百万円)	2022/4期	2023/4期	2024/4期	2025/4期 Q1	(百万円)	2022/4期	2023/4期	2024/4期	2025/4期 Q1
資産					負債				
流動資産					流動負債				
現金及び現金同等物	16,869	22,678	14,196	27,340	営業債務及びその他の債務	774	1,674	2,945	1,827
営業債権及びその他の債権	401	472	1,044	735	契約負債	109	253	-	-
契約資産	84	496	794	952	借入金	943	988	2,487	3,099
その他	235	769	1,710	2,200	引当金	1,899	3,726	2,071	2,095
流動資産合計	17,590	24,417	17,746	31,229	リース負債	146	226	239	229
					その他	73	116	1,119	653
非流動資産					流動負債合計	3,946	6,987	8,864	7,905
有形固定資産	1,778	5,151	6,214	6,107	非流動負債				
無形資産	143	138	220	242	借入金	500	5,475	7,375	7,350
その他	613	730	809	787	引当金	672	43	271	2,544
非流動資産合計	2,535	6,020	7,244	7,136	リース負債	914	3,041	3,078	2,989
資産合計	20,125	30,437	24,990	38,366	非流動負債合計	2,087	8,559	10,725	12,884
					負債合計	6,033	15,547	19,589	20,790
					資本				
					資本金	100	100	100	10,185
					資本剰余金	14,881	19,643	7,858	9,724
					利益剰余金	(487)	(4,287)	(679)	(1,255)
					その他の資本の構成要素	(402)	(564)	(1,878)	(1,079)
					親会社の所有者に帰属する持分合計	14,091	14,890	5,401	17,575
					非支配持分				
					資本合計	14,091	14,890	5,401	17,575
					負債及び資本合計	20,125	30,437	24,990	38,366



過年度財務情報：連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2022/4期	2023/4期	2024/4期	2024/4期 Q1	2025/4期 Q1
営業活動によるキャッシュ・フロー					
税引前当期損失	(5,563)	(9,314)	(9,219)	(1,776)	(8,579)
減価償却費及び無形資産償却費	192	455	739	173	257
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	588	(894)	(1,738)	(474)	(578)
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	451	1,045	881	(874)	(1,075)
引当金の増減額 (△は減少)	(629)	1,067	(1,952)	(1,007)	2,325
その他	(712)	(2,864)	(3,988)	(426)	152
小計	(5,673)	(10,505)	(15,277)	(4,386)	(7,497)
その他	172	2,568	2,455	41	530
営業活動によるキャッシュ・フロー	(5,501)	(7,937)	(12,822)	(4,344)	(6,967)
投資活動によるキャッシュ・フロー					
有形固定資産の取得による支出	(480)	(1,528)	(1,082)	(808)	(135)
無形資産の取得による支出	(24)	(10)	(87)	(0)	(35)
その他	(157)	(95)	(12)	(12)	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(662)	(1,634)	(1,182)	(821)	(171)
財務活動によるキャッシュ・フロー					
株式の発行による収入	12,381	10,189	996	-	19,854
短期借入金の純増減額 (△は減少)	943	20	1,424	-	612
長期借入れによる収入及び返済による支出	500	5,000	1,975	636	-
その他	(30)	18	(250)	(66)	(1)
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,794	15,227	4,145	569	20,465
現金及び現金同等物に係る換算差額	295	154	1,377	265	(182)
現金及び現金同等物の増減額	7,925	5,809	(8,482)	(4,331)	13,144
現金及び現金同等物の期首残高	8,943	16,869	22,678	22,678	14,196
現金及び現金同等物の期末残高	16,869	22,678	14,196	18,347	27,340



お問い合わせ先

ir@astroscale.com

visit us at www.astroscale.com/ir/jp
Astroscale Proprietary